

2007年5月(先月の重大ニュース)

教育や地域格差「悪くなっている」急増

「医療・福祉」「教育」「地域格差」の3つの分野で、「悪い方向に向かっている」と考える人の割合が1年前より急増していることが内閣府の世論調査でわかった。教育では12.3(ポイント)増えて36.1%となった。(1日)

タミフル「異常な行動」128人

インフルエンザ治療薬タミフルの厚生労働省の安全対策調査会で、01年2月の発売から今年3月20日までに輸入販売元の中外製薬(東京)から報告があった1079人の副作用を精査したところ、飛び降りや転落などの「異常な行動」は128人で起きていたことが明らかになった。年齢別では10代が57人、10歳未満も43人と多く、未成年が8割近くを占めた。(4日)

先生の給与、査定で20%増減

政府の教育再生会議は、ほぼ一律だった公立学校教員の給与を査定によって80~120%の幅で決められるようにし、新たに「上級教職」を作るなど、成果を反映させる新制度を提言する方針を固めた。(8日)

小中高校生の5.7%がぜんそく

全国の公立小中高に通う子どものうち5.7%がぜんそく、5.5%がアトピー性皮膚炎にかかっていることが、文部科学省が初めて行ったアレルギー疾患に関する全数調査でわかった。同省は「学校側の対応は十分でない」とみて、学校用の手引の作成などを進める方針。(12日)

学力テスト高3改善

文部科学省は、高校3年生約15万人を対象に05年秋に実施した学力テストと意識調査の結果を公表した。前回調査(02~03年)にも出題された問題で比べると、約14%の問題で正答率が上がり、勉強を「好きだと思う」「どちらかといえばそう思う」という答えも計22.1%(前回は20.0%)で増えた。ただし、科目ごとにみると、理科や数学で前回に引き続き、下回った問題が多かった。今回の調査では、「ゆとり教育」を柱に02年度から実施されている現行の学習指導要領で学んだ高校生が初めて対象になった。(13日)